

## 情報公開文書（オプトアウト）

## 大垣市民病院に入院された患者さまへ

当院では下記の研究を実施しています。本研究の対象に該当する可能性のある方で情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問合せください。

研究課題名	日本における集中治療室入院患者に対する早期離床の実態調査 Early Mobilization Practices of Adult Patients admitted to ICU in Japan: A one-day Point-Prevalence Study
当院の研究責任者 (所属)	戸部一隆（大垣市民病院医療技術部リハビリテーションセンター）
他の研究機関および 研究責任者	松嶋真哉（杏林大学保健学部リハビリテーション学科理学療法専攻）
本研究の目的	日本の集中治療室に入室している重症患者における離床・リハビリテーション実施率を明らかにする。また、離床が実施できなかった患者の患者情報から、その阻害因子について調査する。
調査データ該当期間	2024年4月02日（承認後）～2026年3月31日
研究の方法 (使用する試料等)	<p>【対象となる患者さま】上記期間内に当院の集中治療室に入室した患者</p> <p>【利用する情報】電子カルテおよび診療録に記載のある診療記録および検査データより、リハビリの実施内容、離床が実施できていなかった場合の理由、年齢、性別、身長、体重、病名、ICU入室理由、入室しているICUのタイプ（surgical ICU, Coronary care unit, Stroke care unit など）重症度(APACHE II score : acute physiology and chronic health evaluation)、ICU滞在期間、人工呼吸器装着の有無、人工呼吸器装着期間、補助循環の有無、覚醒レベル、投薬状況、栄養投与状況、併存疾患（Charlson Comorbidity Index）入院前のフレイルの有無（Clinical Frailty Scale）</p> <p>【個人情報の取り扱い】収集した情報は、解析する前に氏名・患者IDなどの個人情報を削除し新たな符号（番号）を付け、どなたのものかわからないようにします（このことを匿名化といいます）。匿名化した上で、パスワードロックのかかる情報漏洩対策を施した本研究専用のハードディスクに保管し管理いたします。患者IDと新たな符号の対応表は、別途パスワードロックのかかったメモカードに保存し、同様に管理いたします。</p>
外部への情報の提供	研究責任者へ情報の提供を行います。この際は、匿名化されたデータを提供するため、個人を識別できる個人情報の提供は行いません。また、データを用いて学会発表および論文発表が予定されておりますが、その際にも個人を特定できる情報が公表されることはございません。
データの二次利用	収集したデータを他の研究で二次利用する可能性があります。二次利用する際には、改めて倫理審査委員会の承認を得、その研究についての情報を公開いたします。
本研究の資金源	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

(利益相反)	
問い合わせ先	大垣市民病院医療技術部リハビリテーションセンター戸部一隆 0584-81-3341 (内線 4340)